

## 第 10 回門真市魅力ある教育づくり審議会議事録

開催日時 平成 30 年 8 月 7 日（火） 午後 2 時 30 分～午後 5 時 50 分

開催場所 市役所別館 3 階 第 2 会議室

出席者 森田英嗣、佐久間敦史、新谷龍太郎、片山仁、川村早余子、小林美鈴、横貫照国、国吉孝、上甲尚、齋藤耕司、中川智広

事務局 久木元教育長、満永教育部長、水野教育部次長、寺西教育部総括参事、中野教育総務課長、三村学校教育課長、西中図書館長、高山学校教育課参事、峯松学校教育課参事、黒木教育総務課長補佐、宮崎教育総務課長補佐、松岡教育総務課副参事、永田教育総務課主査

傍聴者 1 名

議 事

### ○開会と資料の確認

#### 森田会長

定刻となりましたので、「第 10 回門真市魅力ある教育づくり審議会」を開催させていただきます。本日もご多忙の中、ご出席いただき、ありがとうございます。

初めに、事務局から、資料の確認をお願いします。

#### 事務局（中野教育総務課長）

教育部教育総務課長の中野でございます。

資料の確認の前に、部長、次長でございますが、別の公務がございまして、少々遅れますが、ご了承をお願いします。

まず、お手元の資料の確認をさせていただきます。1 点目、配席図。2 点目、会議次第。3 点目、資料 1 「第 9 回門真市魅力ある教育づくり審議会議事録」、全体会と各部会の 3 部でございます。4 点目、資料 2 「第 9 回門真市魅力ある教育づくり審議会各部会での意見（まとめ）」。5 点目、資料 3 「答申書（案）」。6 点目、資料 4 「資料（審議の経過）」となっております。

皆さま、すべてお手元でございますでしょうか。

なお、本日も「門真市教育振興基本計画」を使用いたします。  
お持ちでない方には貸し出しをいたしますので、挙手をお願いいたします。

#### **森田会長**

ありがとうございます。みなさんご理解いただいていることだと思いますが、本日で答申書の完成ということになりますので、よろしく願いいたします。

## ○1. 第9回審議会の報告について

### 森田会長

それではまず、案件1「第4回審議会の報告について」でございます。  
事務局から説明をお願いいたします。

### 事務局（中野教育総務課長）

資料2「第9回門真市魅力ある教育づくり審議会各部会での意見（まとめ）」をご覧ください。前回、各部会で議論していただき、各部会長より発表いただきました意見をまとめさせていただいておりますので、読み上げさせていただきます。

まずは、子どもの学ぶ意欲向上部会での意見です。

「学級数がかなり少ない学校では、一人で学年を持つので、相談するところがない。また、子どもの立場に立つと先生との相性があるので、クラス替えがないまま同じ先生に数年間持たれるということもあり大変である」、「小規模の学校だと先生の目が行き届きやすい反面、クラスで問題が起こると、場合によっては不登校のことなども考えなければいけない」、「小規模校はメリット、デメリットが合わさっているという状況で、一定規模のクラス替えができる程度の規模がないと、なかなか人間関係という点では難しい」、「主体的対話的で深い学びについて、特に小学校で主体的対話的な授業というのが難しい状況にある。深い学びという点でも難しい状況にある」、「そもそも対話的とは対話だけしてればいい授業ではない。どういう内容で対話をし、それがどう深い学びにつながっていくのか。そのための授業づくりをどうしていくのが大切である。そのためには小学校での基礎的な学習内容というのをきっちりしなければいけない。先生側の方で余裕を持ってできる授業の時間割りが必要」、「ICTについては、これからもっと環境整備を整えていく必要がある」、「例えば理科では、デジタル教科書を使った授業が浸透していて、ICT機器を使うことで、複数のクラスを授業する場合の準備がかなり効率化される。また、先生方同士で教材の苦手な部分と得意な部分のお互いのカバーをできる。他にも、通知表であったりとか成績をつける上でもICTがかなり業務軽減に活かされている」、「ICTの環境整備を進めていく中で、よりよい授業、より効率的な働き方を研究していく必要があるのではないか」、「一方で、ICTを使い過ぎることで、本来高めたい創造力、創造できる先生、創造できる子どもを逆に潰してしまう可能性があるので、バランスをとってICTを使っていく必要がある」。以上のような意見がありました。

続きまして、つながりのある教育の創造部会での意見です。

「門真の現状として小中のそれぞれの教職員の連携とか理解という小中一貫

教育はこの10年間随分と進んできた。しかし、小中一貫教育はどうしても物理的な距離が障害となってこれ以上進めにくいところもある。そのため、施設一体型の小中一貫校であれば解消が可能であると思われるので進めていきたい」、「小中一貫校のメリットは、授業の理解が進んだ、勉強が好きになった、意欲が向上した、不安がなくなった、中一ギャップがなくなったとか、メリットが大きいので早く進めてほしい。子どものためのメリットが大きいということであればいいのではないか」、「デメリットとして挙げられているものは、子ども達へ気配りを知らせたりとか、建物の工夫とかで克服することもできるのではないか。また、施設が出来つつある時に、検討すれば十分ではないか」、「メディアセンターとか広々とした教室とか、いろんな形で使えるような教室、ゆとりのある施設というのも欲しい」、「人間関係が固定されるデメリットである小規模校で十数人の子ども達がずっと6年間一緒という門真の現状が喫緊の課題なので、そういう意味でも統合して、大きな人数にして、むしろそれは解消できるのではないか」、「前回の学校適正配置審議会では1つの小学校から2つの中学校に進学するということが起こっていた時代で、それを解消するために議論が進んだり、あるいは2つの小学校から1つの中学校に入ることが、当時は妥当な議論として進んできたようだが、今はもうそういう現状ではないので、今に合わせて柔軟に対応しながら、小中一貫校を創っていくということが子どものためになるのではないか」、「地域とのつながりを重視した学校のあり方について、善意は非常にありがたいが、なかなか地域の方がやりたいことがたくさんあって、うまく調整がつかないことがある」、「ルールをもう少し明確にしていきながら、ボランティアがやりたいことをやるのではなくて、ボランティアは学校が求めることを原則していただくのだと、学校とうまく調整つけながら、良い地域との関係を作っていけたら良い」、「地域の方がどんどん学校に入っただけでメリットを活かすためにも、動線を分けていきながら、子どもの安全も配慮しなければならない」以上でございます。

#### 森田会長

ありがとうございました。それでは、事務局から説明のあったお手元の資料2ですが、確認していただき、何か気づいた点やご意見、ご質問はありませんか。

#### 佐久間委員

質問してよろしいでしょうか。子どもの学ぶ意欲向上部会の上から4つ目のアクティブラーニングのところで、「特に小学校で主体的対話的な授業が難しい状況にある」という部分について、少し説明をいただければと思います。こ

これは小規模校ならということなのですか。

#### **新谷委員**

これは対話をするような授業は展開しているが、学力テストの自己評価のアンケートの中で、門真の場合、小学校が中学校に比べて、振り返りの時間が少ないというパーセンテージがあったので、対話はあるけれども、学びの振り返りが十分にできていない現状があるのではなのかという点と、深い学びという点は、担任開発という点で、教員の多忙化も合わせて、深い教材研究等、考える時間の余裕がないので、対話はあるが、子どもの心というか考えに深く入っていくような授業づくりをする余裕がないのではないのかということをお話し合っていたと思います。

#### **森田会長**

こういう意見が出たということなのですが、読むと中学校ではできているけどもという対比的な書き方になっているようですが、これはよろしいのでしょうか。

#### **新谷委員**

これは、補足として中学校と小学校のアンケートでしたでしょうか。

#### **事務局（峯松学校教育課参事）**

全国学力テストの児童生徒質問用紙です。

#### **森田会長**

アンケート結果からきているということなのですか。

#### **事務局（峯松学校教育課参事）**

アンケート結果を見てみると、中学校の方では、生徒は比較的、話し合う活動に参加していたとか、主体的な学びができているという割合が高かったのですが、小学校の児童については、アンケート調査では児童自身が主体的対話的深い学びを実感しているという割合が少ないという結果が出ております。

#### **佐久間委員**

ここで改めて議論する必要はないのかもかもしれませんが、一般的には小学校はアクティブラーニングはできているので、それ以上は無理をしなくてもいいというのが、文科省の見解だと認識しているのですが、むしろ大学の教員が説法

している授業等にそれが必要なわけで。もうひとつ単に班で話し合えば、対話的であるというのも、ずっと前から文科省も失敗例だと言っていて、中学校は単に話し合いをさせているだけで、中学生は対話的だと認識していて、本来的に対話的というのは地域に出て行って、地域の人から話を聞いてくるというのが対話的であって、実は小学校ではやっているのだけれども、教師が対話的だと認識していないだけかもしれないので、あまりきつく書く必要はないのかなと個人的には思っています。ただデータに基づいているということであれば、逆らうつもりもないのですが。

### 新谷委員

こちらの部会は中学校の先生だけで構成されていますので、小学校の実態が部会の中ではなかなかみ取れないということもありますので、実態に合わせて検討いただければと思います。

### 森田会長

全国学力・学習状況調査に基づくというような文言が必要ですね。このようなデータとして読めるぐらいかもしれませんね。小学校の先生がいらっしやらないということで、具体例が出てきたという訳ではないのかもしれませんので、感じるや難しい点があるように見えるぐらいの書きぶりがいいのかもしませんね。

### 新谷委員

見えるというか数字で出ていますので、実態を考慮する必要があるとかいう形で表現されるのがいいのかもしれませんね

### 森田会長

では、部会長と調整していただいて、調査に基づいたということが分かるようにしていただければと思います。印象で語っているのではないということです。

その他はどうでしょうか。

### 中川委員

デジタル教科書で理科のことが書かれています、理科よりも先に英語の方が普及していますので、門真市では英語の方が当たり前になっています。

### 森田会長

下から3つ目の部分ですか。

#### 中川委員

英語に続いて、理科も入れていただいて、理科もどんどん進んでいるという状況です。本校でも英語の先生は普通に使っていますので。

#### 森田会長

では、「英語はもちろん理科でも」というような感じですかね。

#### 中川委員

そうですね。これだけ見て英語の先生が俺たちもしているしというふうにならないかなど。

#### 森田会長

難しいですね。

#### 国吉委員

他の教科はどうですか。今、英語と理科が挙がりましたが。

#### 中川委員

市でデジタル教科書を買ったのは、まずは英語で、理科は去年から買っただいて、全中学校でしています。それまでは各学校で予算が取れたら、理科は入れるというような感じで、試験的に導入している学校で取り組んでいる先生が多いということで、去年から入れていただいたということです。

それこそ、各学校で、市の予算ではなく、各学校でこういうことをしたいという先生方のところでやっている

#### 森田会長

デジタル教科書が入っているのは、英語と理科ということですね。

#### 事務局（峯松学校教育課参事）

数学もあります。英語と理科と数学ですね。

#### 森田会長

それでは、数学も入れておきましょうか。

「英語はもちろん理科や数学でも」、これでいいのかな。

**新谷委員**

「例えば」の前に「さまざまな教科で導入されている」としてもいいのかなと。

**森田会長**

そうですね。「デジタル教科書については、さまざまな教科で活用されており、例えば理科では授業に浸透している」という感じですかね。

**新谷委員**

そうですね。

**森田会長**

ありがとうございました。なかなか気をつかうところですね。その他ございませんでしょうか。

**森田会長**

下から4つ目のところが少し読みづらかったところがありましたよね。「1つの小学校から2つの中学校に進学するということが起こっていた時代」は「進学するということが起こっていた」ですね。

**新谷委員**

言葉尻なのですが、つながりのある教育の創造部会での下から2つ目の「原則していただく」というところは、助詞を入れていた方がいいかもしれませんね。「原則にしていただく」ですかね。

**森田会長**

よろしいでしょうか。ここの部分が気になったところですので、修正していただいて、みなさんにメールで送っていただくということでよろしいでしょうか。

ではよろしく願いいたします。



## ○2. 第10回審議会の進め方について

### 森田会長

では、案件2.「第10回審議会の進め方について」でございます。  
事務局から説明をお願いします。

### 事務局（中野教育総務課長）

今回の審議会につきましては、事前に皆様にお送りさせていただいております、森田会長におつくりいただきました、前回までの審議会を踏まえた、「答申書（案）」を基に、答申を完成させていただきたいと存じます。

具体的には、中間答申の時と同様に、森田会長作成の「答申書（案）」をプロジェクターに投影いたします。

項目ごとに事務局が読み上げてまいりますので、皆様からご意見をいただき、変更・加筆があれば、その都度、修正をさせていただきたいと思っております。

なお、本日、答申書について審議委員皆様のご承認をいただけましたら、準備が整い次第、教育長に対し、平成28年11月1日付、教育委員会からの諮問に対する答申として、手交、即ち、皆様にてご審議いただいた提言を森田会長より教育長に手渡していただきたいと思いますと考えております。

第10回の審議会の進め方に関しましては以上です。

### 森田会長

ありがとうございました。今の説明について、何かご意見、ご質問はありませんか。

### 森田会長

よろしいでしょうか。

たとえ、会長が作ったものであれ、みんなで直していきたいと思っております。そのあたりは忖度の必要ありませんので、よろしくをお願いします。

### ○3.「答申書（案）について」の説明

#### 森田会長

それでは、案件3.「答申書（案）」についてであります。先日の第9回審議会の最後に申し上げた通り、会長といたしまして答申案をまとめましたので、ここに提示させていただきます。

答申案作成にあたりましては、別添の資料のとおり事務局にこれまでの審議の概要やそこで佐久間部会長・新谷部会長から出された意見のまとめを基に答申案としてまとめさせていただきました。

皆様方には事務局をとおして送付をさせていただき、ご確認いただいているところだと思いますが、段落ごとに進めてまいりますので、その都度、ご発言をいただきますようお願いいたします。

この答申案を皆さん方と再度読み合わせを行い、質疑等も行いながら、文章表現等について加筆・修正等、変更すべき点などがあれば、その場で訂正を行ったうえで、先程事務局から説明いただきました通り、門真市教育委員会教育長に対し、私から委員の皆様方の前で代表して手交をさせていただきたいと思っております。

限られた時間ではありますが、本日中に答申書を手交し、門真市の子どもたちの未来のため、この提言を基に教育委員会として、次年度に向けた事業を検討していただきたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

では早速、事務局に朗読していただき、意見交換を行いたいと思っております。

では、よろしく申し上げます。

#### 事務局（中野教育総務課長）

では、朗読させていただきます。

1. はじめに。門真市魅力ある教育づくり審議会では、門真市教育委員会から「門真市教育振興基本計画の理念に基づく教育のあり方について」の諮問を受け、平成28年11月より、本審議会を開催し、「子どもの学ぶ意欲向上部会」及び「つながりのある教育の創造部会」に分かれて、門真の子どもたちにとってより良い教育のあり方の議論を深め、昨年8月には、本審議会より中間答申を行ったところであります。

中間答申の内容は以下の通りです。(1)確かな学力と豊かな心を育むために子どもの夢と幸せを育むため、主体的かつ意欲的に取り組むことができる学習環境の構築及び地域と連携した教育活動などを通して、子どもたちが自己肯定感を高める機会を増やしていくことの必要性、とりわけ「開発的生徒指導」、「かどま土曜自学自習室サタスタ」「まなび舎 Kids」「まなび舎 Youth」、「門真市版授業スタンダード」の改善充実について。

(2)「チーム学校」の構築に向けて、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの増員、教育活動を支援するための支援員を派遣するなど、「チーム学校」を進めるための人員配置について。

(3)子どもの発達段階を重視した取組を進めるため、他市における教育環境づくりの先進事例を調査し、義務教育学校、小中一貫校等の研究をしていく必要があること。特に門真市独自で行っている任期付教員配置による少人数学級編制については、生徒指導上の課題の多様性や、学校の実状を勘案し、学習指導要領改訂も踏まえ、「チーム学校」の観点から、学校の裁量を拡大し、柔軟な人材活用を可能にするなど、制度の発展的改善の検討をすることについて。

(4)子どもの自己実現に関しては、子どもの人間関係は授業内に限らず、学級活動・学校行事・部活動、職場体験学習をはじめとした地域と連携した教育活動などを通して育まれること。特に中学校生活の場においては、部活動における人間関係の形成も重要であり、子どもの自己実現にも大きな役割を果たしており、魅力ある部活動を実施するために、外部指導員の活用、休養日の導入、学校の単位を超えた部活動のあり方、クラブの有無に基づく通学区域の弾力的運用などについて

これらの答申内容を受けて、門真市教育委員会では、小中一貫校や義務教育学校視察等による他市の先進事例の研究、任期付教員条例の改正による活用の弾力化、門真市学校サポートスタッフ制度の新設等の具体的施策を実施していただいているところでありますが、引き続き、「開発的生徒指導」の一層の推進、部活動における指導員の活用や通学区域弾力化等に関する改善、「サタスタ」「まなび舎」の改善、「チーム学校」推進のための任期付教員や学校サポートスタッフの検証・改善等についても具体的に実施していただくことを求めます。

なお、本審議会では中間答申以降の第6回審議会より、「つながりのある教育の創造部会」において『いじめ防止対策の推進』及び『どの子どもも学べる環境づくり』についてを、「子どもの学ぶ意欲向上部会」では『子どもの居場所づくりの推進』及び『自分の将来を描ける力の育成』についての議論を行いました。

また、第7回審議会では、「つながりのある教育の創造部会」において『自分の将来を描ける力の育成』及び『ともに学び、ともに育つ教育の推進』についてを、「子どもの学ぶ意欲向上部会」では『家庭の子育て支援』及び『子ども一人ひとりの課題に沿った支援』についての議論を行いました。

第8回審議会では、「つながりのある教育の創造部会」において『学校施設の改善』についてを、「子どもの学ぶ意欲向上部会」では『学校における英語教育の充実・公民協同による英語学習の充実』についての議論を行いました。

第9回審議会では、「つながりのある教育の創造部会」では『小・中一貫教育を進める環境づくり』についてを、「子どもの学ぶ意欲向上部会」では『子ども

の主体的な学びの育成』についての議論を行いました。

このように鋭意、審議を重ねた結果、以下のとおり答申をいたします。

**森田会長**

ありがとうございました。

では、ここまでの記述について、ご意見、ご質問をいただきたいと思います。

**佐久間委員**

きわめて細かなところなのですが、上から8行目の(1)の「確かな学力と豊かな心を育むために子どもの夢と幸せを育むために」というところは、目的が2つ並んでいるので、「豊かな心」で読点を打って、後ろの「育むために」を消せばいいのかなと思います。

**森田会長**

確かにおかしいですね。育むために、育むためにになってしまっていますね。

**佐久間委員**

間に読点を入れて、「また」をいれればいいのかなと思います。

**森田会長**

「確かな学力と豊かな心、また子どもの夢と幸せを育むため」でいいですかね。

**佐久間委員**

そうですね。

**森田会長**

他はどうでしょうか。

どんなことでもいいですよ。こういうことに触れていないじゃないかとかいうこともあれば言うただけければ。一通りお目通しいただいているところだとは思いますが。

**森田会長**

よろしいですか。事務局どうぞ。

**事務局（中野教育総務課長）**

2点ですが、下から2行目、「制度の発展的改善の検討することについて」のところで、「検討をする」に修正お願いします。

森田会長

「検討をする」ですね。

事務局（中野教育総務課長）

もう一点ですが、次のページの下から5行目です。「英語教育の充実・公民協同」のところで、「公民協働」に修正お願いします。「同」という字もありますが、「働」に修正して下さい。

森田会長

「同」を「働」にですね。分かりました。

あと、今のところのすぐ上の〇〇部会では「～についてを」と「～についての」があって、文章の座りが悪いので、「～についてを」の「を」を取った方が良いと思います。「第〇回審議会では〇〇部会において～について、〇〇部会では～についての議論を行いました」の方が良いかなと思います。最後の4段落のところになりますが、全部「を」を取った方が良いですね。

その他いかがでしょうか。ここは振り返りのところなので、こういうことでしたというところなので、これぐらいで良いのかなと思います。時間を掛けたのは次の提言の2のところなので、そちらに進んでよろしいですか。

では、提言を読んでいただければありがたいと思います。お願いします。

事務局（中野教育総務課長）

「2. 提言

（1）横のつながりや縦のつながりなど、多様な人間関係の構築をとおして主体的に学び合える学校環境の構築について

学習指導要領の改訂を受け、今後、子どもたちが＜主体的・対話的で深い学び＞を行える学校環境づくりはますます重要となります。そのためには、多くの仲間や教職員・地域の方々と触れ合いながら、多様な価値観に出会い、違いを認め合いながら学び合う環境づくりが必要となってきます。

しかしながら、現在、門真市においては少子化が進み、すでに全学年1学級となっている小学校や、新1年生が19人という学校も出てきており、このまま手立てを講じることなく、推移を見守ることは、将来的に子ども達の健全育成や学校運営における様々な課題へとつながることが懸念されるところです。

例えば、6年間もの長い間クラス替えもできないと、人間関係が固定化され、多様な人間とのつながりをつくり、協働し、切磋琢磨しながらコミュニケーション力を培っていくことが難しくなるおそれがあります。また、教職員数も少なくなり、1人の教職員が担当する校務分掌業務が増えることなど、学校運営面でも多くの課題が懸念されます。

こうした中、門真市では、多様な人間関係を構築することによる「小中の円滑な接続」を考え、2小1中体制で小中一貫教育を推進してきました。しかしながら、少子化が進み地域によるアンバランスが生じ始めていること、また教育内容面においても、小中を超えた教員間の連携はあるものの、子どもどうしと一緒に教育活動を行うためには物理的な距離が大きな課題になるなど、今一度中身を検証し、基本コンセプトの変更をも視野に入れて、より有効な小中一貫教育を考えていくことが重要であると考えます。

具体的には、小中一貫教育をより円滑に行えるように、現状に即した新たな流れをつくることも重要であり、「小中一貫校」「義務教育学校」等の考えも含めた学校施設のあり方を検討することを求めます。

学ぶ意欲の向上のためには、児童・生徒にとっても、教職員にとっても、横のつながりや縦のつながりをもとに、多様な人間との豊かなつながりを構築しながら、教育活動が行えるような教育環境を作ることが重要であり、その実現に向けて、早急に今後の門真市全体の学校のあり方を検討していくことを求めます。」以上です。

#### 森田会長

はい、ここにつきましてはいかがでしょうか。

#### 佐久間委員

まず、標記について1行目の「子どもたち」の「たち」は平仮名で、それ以降の「子ども達」の「達」は漢字になっていますので、平仮名に統一するのが一つです。

#### 森田会長

平仮名にした方がいいんですね。

#### 佐久間委員

そうですね。2つ目は、同じページの下から8行目の「基本コンセプト」という言葉がでてきているんですが、基本コンセプトが何か分かりません。おそらく上の2小1中体制のことなのかなと思いますが、これが基本コンセプトだ

とこの審議会で議論した覚えはありませんので、当時こんなことは言っていたが、今はあっていないとは言っていました、我々としてはこれが基本コンセプトだとは思っていないという議論だったと思います。昔はそうだったんですねという議論だったので、「基本コンセプトの変更をも視野に入れて」という弱い感じの議論ではありませんでした。この審議会の立場としてはどこまで言えるのかは置いて話をしていますが。

#### 森田会長

これは市民の方も読まれるということですよ。この基本コンセプトは何だったのかをどこかに書かなければならないと思います。注をつけることはできませんかね。答申に注を付けるのは変ですかね。基本コンセプトを「」でくくるとか、どこかで基本コンセプトが重みを付けられて以前語られていたのであれば、その時の文章を引用して、この基本コンセプトの変更を視野に入れてという意味が分かると思いますが。

はい、どうぞお願いします。

#### 事務局（満永教育部長）

例えば「2小1中体制」の次に「2小1中体制という基本コンセプトで小中一貫教育を推進して」として、「今一度中身を検証し、基本コンセプトの変更を」としてはいかがですか。

#### 森田会長

なるほど。

#### 事務局（満永教育部長）

佐久間委員が言われているのはもっと強い言いの方が良いということですね。

#### 佐久間委員

議論の中では、もうそんなこと言っている場合ではなくて、喫緊の課題ということで議論していたので、基本コンセプトを変えましょうかというそんな弱い議論ではありませんでした。もうそんなものはとっくにあるべきではないという、それぐらいの議論をしていましたので。

#### 事務局（満永教育部長）

そうでした。それでは、喫緊の課題だということで強く言わなければなりま

せんね。「変更も視野に入れて」ではなくて、「変更し」という表現が良いということでしょうか。

#### 佐久間委員

そこまでここで言うべきなのかどうか、分からないんですけども。

#### 事務局（満永教育部長）

皆様方の議論がそのような趣旨であれば、そのように言っていただければいいと思います。

#### 佐久間委員

議論はそうになりました。

#### 森田会長

まず、「小中の円滑な接続」を考え、2小1中体制という基本コンセプトで小中一貫教育を推進して」として基本コンセプトの説明をしているわけですね。「今一度中身を検証し、そのコンセプトの変更」。もっと強く書くとしたらどうしたらいいでしょうか。

#### 新谷委員

削っても大丈夫なんじゃないですか。

#### 佐久間委員

新谷先生が言うようにない方が、文は通るんですが、ないのが良いのかどうかということですよ。

#### 新谷委員

中身の議論としては喫緊の課題だということが話されていたということですね。

#### 佐久間委員

ないならないで良いんですが、基本コンセプトの変更をしなければならないというメッセージを入れておいた方がいいのなら、残しておいた方がいいという話だと思いますが。



### 新谷委員

この2小1中体制で考えていた時とかなり状況が変わっているんだよということをごここで言うておきたいということですね。

### 佐久間委員

そうですね。これまでの門真市の行政の流れでいうと変更も視野に入れてという文言はあった方がいいですかなくてもいいですか。

### 事務局（満永教育部長）

2小1中というのは議論があった中でやはり変えていかないと、フレキシブルにしないと今後の義務教育学校の議論には臨めないとは思いますがという議論だったと思います。したがって、今後のことを考えると、このコンセプトはこのままでいいのかという提言になるのでしょうか。

### 佐久間委員

そうですね。そういう趣旨の話をしましたので、趣旨はそれでいいと思います。

### 事務局（満永教育部長）

そういう趣旨をもとに、ご議論いただければいいと思います。

### 新谷委員

そうすると段落の2行目のところで「2小1中体制というコンセプトで小中一貫教育を推進してきました」としておいて、下から2行目のところで「今一度中身を検証し、これまでの基本コンセプトの変更をも視野に入れて」というかたちにして、基本というのが分からないので、これまでコンセプトにしてきた2小1中体制という方が初めて読む方には分かりやすいのかなと

### 森田会長

今のでよく分かるかなという気がしますが、ただ弱いんじゃないかということですね。

### 川村委員

質問いいですか。2小1中体制の議論と言うよりは人数が少ない、適正を考えてもう少し考えようということですか。

### 佐久間委員

昔がそうですね。昔は1小が2中に分かれていたりしたことがありましたので、2小が1中に行けるように整えたんですね。

### 川村委員

ああ、なるほど。今ようやく意味が分かりました。

### 佐久間委員

それが立ち行かなくなって、それよりも少子化が進んでしまっ

### 川村委員

今はそれよりも人数を考えて2小1中よりも広い範囲でちゃんと考えないといけないということですね。人数が少ないからこそ2小1中を超えてということですね。

### 佐久間委員

これを基本コンセプトにしていたらこの議論は成り立たないのでという議論をしていました。

### 川村委員

コンセプトと言うより人数についての文言を入れた方が良いでしょうね。統廃合を含むとか。

### 森田会長

まず今まで基本コンセプトとしてきたものをもう一度ゼロベースで考えましょうということですね。

### 佐久間委員

そうすると基本コンセプトを変更しと書いていただくとここの議論とは合うんですけれども。そこまで書けないのならそれでも構いませんが。

### 事務局（満永教育部長）

「変更し」とおっしゃっていただいているので、それでけっこうかと思えます。皆さん方の議論をもとにお考え下さい。

### 佐久間委員

前回の議論では変更しとなっていたので。「変更をも視野に入れて」ただ変更をしないことがベースになっているようにしか見えません。

### 事務局（満永教育部長）

議論では「変更し」となっているということですので、そういったかたちで当然結構かと思います。

### 佐久間委員

学校側の委員からおっしゃっていただいたのもそういうことかと思います。

### 国吉委員

「変更し」で変更するのは思いますが、前を見たら「今一度中身を検証し」となっていてまた「し」となりますから、変更するなら。

### 事務局（黒木教育総務課長補佐）

前を上に変えさせていただきますでしょうか。「今一度中身を検証の上、基本コンセプトを変更し」としてはいかがでしょうか。

### 森田会長

基本をとったほうが良いと思いますね。下をコンセプトにした方が良いでしょう。上記コンセプトというあまりよくありませんし、新谷先生は何っておっしゃっていましたか。

### 新谷委員

「これまでの」です。

### 事務局（満永教育部長）

「これまでのコンセプトを変更し」としたほうが今までを変更するというかたちになるのかなと思います。

### 森田会長

「これまでのコンセプトを変更し、より有効な小中一貫教育を考えていくことが重要であると考えます。」はい。

### 事務局（満永教育部長）

上は「2小1中という体制で小中一貫教育を推進してきました。」

### 森田会長

そういえば分かりますよね。何を言っているかがね。

はい、ではその他いかがですか。

### 川村委員

一番最初の提言（1）が「構築をとおして、、構築する」となっているので、最後の方に人間関係の構築と書かれているので、最終的な目標は確立とか言葉を変えたらどうかなと思います。

### 森田会長

人間関係の構築というのが一つの言い方になっていけば、ここだけ変えらとおかしくなりますね。

学校環境の構築というのは、主体的に学びあえる学校環境「づくり」ですね。

### 事務局（満永教育部長）

よく「学校環境づくり」と言いますね。

### 森田会長

最後の方を「学校環境づくり」に変えてみるとどうですか。

### 新谷委員

下の文章でも学校環境づくりと書いていますからね。

### 森田会長

それでは「づくり」にしましょう。「構築をとおして主体的に学びあえる学校環境づくり」ですね。

はい、その他いかがですか。

3段落目の最初の文章なんですけれども、「例えば、6年間もの長い間クラス替えもできない」というのは、「も」の意味が分からないので、「クラス替えができない」とではダメですか。長いかどうかもありますので、「6年間クラス替えが」の方がいいかなと思いますね。「6年間クラス替えもできない」とですね。「が」で大丈夫ですかね。限定して言っていないんじゃないかなと思いますが。意味はこれでそのままかなと思います。

あと第2段落目の「推移を見守る」とあるんですが、手立てを講じないということと同じですよ。このまま手立てを講じないということで、推移を見守るとか見守らないとかは、必要ないかもしれませんね。

その他ありませんか。

#### 事務局（満永教育部長）

「このまま手立てを講じなければ、将来的に子どもたちの」ですね。

#### 森田会長

今のところよろしいですか。声に出して読んでみると色々と気づきますね。

川村委員よろしいですか。

では、次に行きましょうか。(2)のところに行きます。

#### 事務局（中野教育総務課長）

「(2)すべての子どもにとって安全で優しく、充実した学校施設の構築について

門真市の学校は、高度経済成長期に一気に建設が進められ、現在、耐震工事は行っているものの、築40年を迎え、老朽化している校舎が多くあります。また、当時必要だった教室は空き教室になっており、学校によっては学年教室や算数教室等に使用しているものの、新学習指導要領にて求められる主体的で対話的な授業展開への対応や、英語教育・ICT機器への対応等、柔軟かつ効果的な授業展開などに資するような環境と言えない状況にあります。また、学校環境になじめない子どもたちの気持ちを落ち着かせたり、面談したりする際に使用できる落ち着いた雰囲気のある部屋や、学級だけでなく学年全体や異年齢集団など大勢の子どもたちが集えるような部屋も不十分な状況にあります。

こうした中で、門真市において、魅力ある教育づくりを行うに当たっては、どのような立場の子どもにも居場所があり、子どもたちが多様な人間関係を構築できるような環境をつくるという観点が欠かせません。

そのためには、例えば施設を新築して、その際に画一化された教室だけではなく、パーテーション等により分割できる多目的ルームなど、新しい学習指導要領により探究的な学習や主体的な学習が中心となる時代に合せ、校内に多種多様な空間を設置することが大切です。

これに加えて、子どもの学ぶ意欲の向上を図れるような授業づくりに当たっては、ICT機器の有効な活用も子どもの学ぶ意欲の向上に対して効果のあるものと考えられ、学校ICT環境のさらなる整備を求めます。

こうした環境整備は、障がいのある子どもや、外国につながる子ども、

さらには厳しい家庭環境にある子どもなど、様々な立場の子どもたちにとっても優しく、居場所のある授業や教室環境、学校環境をつくることにつながり、「ともに学び、ともに育つ」教育の推進に向けて望ましい学習環境を構築することにもつながると考えます。

また、子どもたちが多様なつながりを持つためには、学校が社会に開かれた学校となり、地域と一層の連携を図ることも有効です。例えば学校の敷地内に小さな子どもや高齢者の居場所があるといった幼少期から高齢期までの人の生き方が見えてくるような学校づくりという観点も大切です。その際に、地域住民と子どもたちが適度な距離感を保ちながら、快適に過ごせるような学校施設は、子どもたちの豊かな学びを実現するうえで効果的であると思われれます。

さて、本年6月18日に発生した大阪北部地震では、あらためて、学校施設の安全性について、警鐘が鳴らされました。

今後は、市内学校の再編統合についても早急に検討を進め、新しくきれいで、どの子にも優しく、そして安全・安心でかつ、防災機能も兼ね備えた学校施設を順次つくっていくという方向性を打ち出すことも重要かつ必要であると考えます。」

#### 森田会長

はい、ありがとうございます。では読んでいただいた部分についていかがですか。

#### 川村委員

(2)の「充実した学校施設の構築について」は(1)で人間関係の構築を使っているの、そこは「づくり」とか「在り方」とかがいいと思います。

#### 森田会長

そうですね。「学校施設づくりについて」、人間関係については構築を使って、その他は学校施設や学校環境は「づくり」にしても良いかもしれませんね。とすると「すべての子どもにとって安全で優しく、充実した学校施設のづくりについて」でいいですかね。

長くなるから最後に「づくり」とするとおかしいかもしれませんね。「学校施設の在り方について」でもいいかもしれませんね。いいですか。

その他いかがですか。はい、新谷先生。

#### 新谷委員

小さい点が2つと、大きな変更点が一つなんです、まず2段落目の下から

2行目の「合せ」の「わ」がないのと、次の段落で「子どもの学ぶ意欲」が重なっています。「ICT 機器の有効な活用も効果のある」で意味が通じるかなと思います。どちらを削るかはご意見下さい。

下の段落なのですが、ICT の環境整備から障がいのある子どもの繋がりは、飛躍している気がしますし、議論の中でも充分詰められていないような気がしますし、「こうした環境整備は」を削っていただいて、「その際」とつなげていただければいいかなと思います。下の「さらには」はいらないかなと思います。「厳しい家庭環境に」とそのまま続けていただければいいかなと思います。それと3行目の「学校環境をつくることを考慮し進めることが」にさせていただくと、単に ICT 環境だけではないという意味合いになってくるのかなと。大きな目的は「ともに学び、ともに育つ」環境づくりだということになるかなと思います。

**森田会長**

なるほど。こちらの方が言いたいことが繋がりますね。

**新谷委員**

ICT だけが目的ではなかったと思いますので。

**森田会長**

そうですね。

**川村委員**

ついでですが、「学習環境を構築」は「学習環境づくり」の方がいいですね。

**森田会長**

はい。

**事務局（黒木教育総務課長補佐）**

ここはどうでしょうか。

**新谷委員**

「活用も効果のあるものと考え」ですね。

**森田会長**

「効果が」ですかね。ICT の話なので「効果が」に限定しましょうか。

はい、その他にいかがですか。

### 片山副会長

最後の方の、「今後は」の行の「きれいで」というのは抽象的なので、言葉を変えたいと思います。例えば「衛生的で」とか。

### 森田会長

なるほど、「きれい」、「衛生的」、「清潔で」。確かにきれいと言うと新しくて、見栄えがいいというのも違いますし。

### 片山副会長

その後ろに続くのが、「優しく、そして安全・安心」となっているので、重ならないような言葉にしないといけないと思います。

### 佐久間委員

ここは小林委員がおっしゃっていましたトイレのことですかね。

### 小林委員

なるほど。

### 新谷委員

新しくきれいだと新しいものは必ず古くなりますからね。

### 森田会長

「衛生的で」が良いですかね。

### 新谷委員

その方がいいですね。

### 森田会長

「新しく衛生的で、どの子どもにも優しく」。

はい、その他いかがですか。

大丈夫そうですか。はいじゃあ、最後に全体を振り返る時間をつくりたいと思いますので、何か思い出しましたらその時にお願いします。では（3）お願いします。



## 事務局（中野教育総務課長）

「(3) いじめ防止指針の策定及び不登校問題の対策について

平成 25 年 9 月 28 日に「いじめ防止対策推進法」が施行され、5 年が経とうとしていますが、未だ、日本各地でいじめを背景として、児童生徒の生命や心身に重大な危険が生じる事案が生起しており、本市においても、スマホや SNS を介したいじめ事案や、重大な事態につながりかねない悪質ないじめ事案も生起しているところです。いじめ問題は重大な人権侵害事案であり、どの子にも居場所があり、どの子にとっても安心して通える学校づくりを推進していく門真市にとって、最重要課題であると考えます。

いじめ問題については、平成 29 年 3 月 14 日に改定された国の「いじめの防止等のための基本的な方針」が打ち出されたところですが、市の「いじめ防止基本方針」を定め、いじめの未然防止や早期発見・対処、地域や関係機関との連携を総合的かつ効果的に推進することで、いじめは絶対に許さないという強い意志を示し、これまで以上に実効性のある方針を打ち出されることを門真市にも求めます。

また、不登校問題については、統計上、不登校としては計上されない学校を欠席しがちな児童が小学校に多数存在することを重視し、この子どもたちに対するケアが必要不可欠です。その要因が多様であり重複的であるため、学校だけでなく、福祉部局をはじめとしたさまざまな関係機関との連携の中で子ども、家庭を支えていくことが重要です。

一方、「適応指導教室かがやき」は「ここなら通える」といった子どもの声や実績もあり、子どもの居場所づくりという観点でも、一定の役割を果たしていることから、今後も必要な事業であると考えます。ただし、子どもたちの「学校生活への復帰」という現在の目標を堅持するのか、学校に行けない子どもたちが安心して過ごせる場にするのか不明瞭な部分がありました。そのため、子どもを通わせることに慎重にならざるを得ない保護者もおります。今後は議論を行い、学校に復帰することを柔軟に考えるなど、より子どもたちが通いやすい教室にすべきであると考えます。

また、昨今「外に出たくない」といったいわゆる重度の「引きこもり」の子どもも増えています。このような子どもたちに対しては「社会との接点（or 窓口）」といった意味での居場所が必要であり、今後「かがやき」に対してはそのような機能も求めます。」

## 森田会長

はい、ありがとうございました。この部分についていかがですか。

### 佐久間委員

「スマホ」という言い方はどうなんですか。普通の文章ではあまりみませんね。「スマートフォン」とか「携帯電話」とかですね。

### 森田会長

そうですね。「スマートフォン」にしましょう。

はい、その他いかがでしょうか。何でも結構です。

### 佐久間委員

事務局に改めて質問なんですけど、「堅持する」となっているんですけど、かがやきの「学校生活への復帰する」という目標を堅持しているんですか。

### 森田会長

上から4行目ですね。

### 事務局（三村学校教育課長）

かがやきですが、堅持するという書き方が良いかどうかはありますが、今のかがやきの先生方の認識や我々の方針では、頑張ってかがやきで勉強しながらコミュニケーションを図りながら学校に復帰をするというのは実際ありますが、ただ現在のかたちとしては、この前の議論でも出ましたけれど、そこが本当に居場所になるのであれば、学校に戻るということではなくて、子どもたちが過ごす場所としてのかがやきの場所という認識でやっていくのも一つの方向性ではないかと考えています。

### 佐久間委員

それは分かるんですけども、「学校生活の復帰という現在の目標を堅持するのか」と書かれると対立軸になりますので、一方は堅持するのだという人がいて、そうではないんだという人と対立しているという感じに見えますので、現在の目標がそんなに強いものなのかなと思います。そうならそれでいいんですが。

### 事務局（満永教育部長）

確かに堅持という言い方は固いですね。かがやきの目的が学校に戻ることではありますので、継続という言い方がより適切かもしれません。

## 森田会長

なるほど、継続の方が良いかもしれませんね。

## 佐久間委員

こうあらねばならないと主張している人がたくさんいるわけではないんですね。

## 事務局（満永教育部長）

ではないですね。かつてはここは学校に返していく場だから居心地をよくしているのかという議論はありましたが、最近子どもたちの状況が変化していく中で、柔軟に対応していかないといけないとなっておりますので、継続でもいいと思います。

## 新谷委員

あと、ここは保護者という言葉がでたらより着目して読んでしまうかもしれませんので、「学校生活への復帰」という現在の目標については今後議論を行い、学校に復帰することを柔軟に考えるなど」としても良いのかなと思います。

そうした方が対立しているという誤解をまねかないかもしれません。

## 川村委員

「保護者」を抜くのも一つかもしれませんね。「そのため、子どもを通わせることに慎重にならざるを得ない保護者もおります。」は入れても入れなくても良いかなと。「不明瞭な部分がありました」と過去形なので、「堅持」でもいい気もしますが、そういう意見があってどうするかという話し合いがあって今後どうするかということが大事なら、別に「堅持」でもいいし、表現を変えるなら、「不明瞭な部分があります」とかその部分も進行形に変えて次に繋げていったらいいのかなと思います。

## 新谷委員

現在の立場を堅持するというのとそれに対する議論があったというのは事実だと、だから今後議論をしていくから、保護者という言葉は削るということですね。一旦「そのため、子どもを通わせることに慎重にならざるを得ない保護者もおります。」削除してもらっていいですか。

「ただし、子どもたちの「学校生活への復帰」という現在の目標を堅持するのか、学校に行けない子どもたちが安心して過ごせる場にするのか不明瞭な部分がありました。今後は議論を行い、学校に復帰することを柔軟に考えるなど、

より子どもたちが通いやすい教室にすべきであると考えます。」どうでしょうか。

#### 事務局（満永教育部長）

すいません。

「子どもたちが「学校生活への復帰」という現在の目標を継続するのか、学校に行けない子どもたちが安心して過ごせる場にするのかについて議論を行い、学校に復帰することを柔軟に考えるなど、より子どもたちが通いやすい教室にすべきであると考えます。」ではいかがでしょうか。

#### 新谷委員

一度それで変更をお願いします。

#### 森田会長

「ただし」というのも取ったほうがいいですね。

#### 事務局（満永教育部長）

「ただし」を「今後」にしてもいいかもしれませんね。

「今後、子どもたちが「学校生活への復帰」という現在の目標を継続するのか、学校に行けない子どもたちが安心して過ごせる場にするのかについて議論を行い」として次の「今後」は消したほうがいいですかね。

事業自体は今後も必要ですので、しかしながらその在り方は今後も考えていかなければなりませんので、その重複は許されませんかね。

#### 佐久間委員

その慎重にならざるを得ない保護者や子どもがいるんだというのは、取ってもいいんですか。そこを救済するんだということであれば、あえて入れる方法もあると思いますので。

#### 国吉委員

「今後」と「今後」が被るなら、最初の3行目の「今後」を変えたらいいのではないですか。最初を「引き続き必要な事業であると考えます」に変えてみてはいかがですか。

#### 事務局（満永教育部長）

すいません。今の佐久間委員のご指摘ですが、中学校の校長もいますので、聞いていただければいいかなと思います。

### 森田会長

そうですね。保護者の中には慎重になる人もいるのではないかとということですが、そういう感覚はありますか。

### 上甲委員

うちはたまたまいないんですが。

### 川村委員

いると思いますよ。いると思いますけど、それをあえてここに入れる必要もないのかなど。

### 佐久間委員

結構な数が出て何か不作為な状態が起こっていることで、行政で何か問題が起こるようなことがあれば入れておいた方がいいと思いますけれども、そんなに大きな問題でなければ入れなくてもいいと思います。

### 事務局（峯松学校教育課参事）

保護者が慎重にならざるをえないという声は、特には聞いてはいいです。

### 事務局（三村学校教育課長）

現在、中学校の方に適応指導教室ができる体制が整いましたので、確かにそっちの方に通う生徒が増えたのが実態ではあります。ただ子どもたちが学校の別室であったり、「かがやき」であったり広がっているのは実態なので、今後の方向性としては一番下を書いてある「学校に復帰することを柔軟に考える」、より子どもたちが通いやすい教室にするべきであるというのが一番大事であると思っています。

### 佐久間委員

行政が問題をほったらかしにしているという印象があるので、そういう現状が無くなってきているということであれば、ないほうがいいということですね。なら止めましょう。

### 森田会長

よろしいですか。では今の修正でいけますかね。一回読んでいただいてよろしいですか。

### 事務局（黒木教育総務課長補佐）

「一方、「適応指導教室かがやき」は「ここなら通える」といった子どもの声や実績もあり、子どもの居場所づくりという観点でも、一定の役割を果たしていることから、引き続き必要な事業であると考えます。今後は、子どもたちの「学校生活への復帰」という現在の目標を継続するのか、学校に行けない子どもたちが安心して過ごせる場にするのかについて議論を行い、学校に復帰することを柔軟に考えるなど、より子どもたちが通いやすい教室にすべきであると考えます。」

### 森田会長

もう議論しなくても結論はでているような感じがしますね。

「安心して過ごせる場にするのかについての議論が必要だと考えます」ではダメですか。

### 佐久間委員

結論がでていながら、結論を書いてしまってもいいんじゃないですかね。今消したところをイキにして、「学校に行けない子どもたちが安心して過ごせる場にするのか」というのを消してしまったら、結論になっていいのかなと思うんですが。とにかく「学校に復帰することを柔軟に考えるなど、より子どもたちが通いやすい教室にすべきであると考えます」というのが結論ならそれでいいのかなと思うんですが。上を削ってしまって、事業は継続するんですが、そこから「今後は学校に復帰することを柔軟に考えるなど、より子どもたちが通いやすい教室にすべきであると考えます。」という結論だということにしてしまいませんか。

### 森田会長

それも1つだし。もう一回ゼロベースで考えますというのも1つだと思えます。適応指導教室をどうするかについて私たちはこうしますということであればいいと思うんですが、それを求めますということになるとどうなりますか。そこまでの権限が私たちにあるのかもありますし。

### 事務局（満永教育部長）

当然そういう議論があつて、皆様方が答申でもって、これこれを求めますということであれば、それは我々としては具現化していくこととなります。

### 森田会長

議論していい方向を見つけてくださいというのも一つだし、もう議論の余地はなくて、復帰という目標を継続する人はいませんと。

### 事務局（満永教育部長）

例えば、現在の目標を柔軟に考えながらとか。

### 佐久間委員

部会での議論では、下の4行で、とにかくそんな状況ではなくて、出前で家まで行ってとにかく社会と繋ぐようなことまでしなかったらというのが部会での議論だったんですよ。学校生活への復帰というよりはという感じなんですよね。市民の委員からでた意見も社会の接点とかなんですよね。建物がハードとしてあるのではなくて、それこそバスで出向いていくという議論になっていましたので。

### 森田会長

復帰ということではなくて。

### 佐久間委員

上の「学校生活への復帰」という現在の目標を堅持するという意見は薄かったというのが、部会での議論でした。

### 森田会長

今まで復帰ということが当たり前のようにしてきましたが、少し考え直してということなのか、それとももうそんなものは考え直すのは当たり前で、むしろ居場所としてのかがやきにしてほしいということなのか。

### 佐久間委員

いくつもの機能を併せ持っているという感じですよ。学校への復帰もあってもいいし、一番下の社会の窓口としてとにかく一回ここに出ておいでということでもいいし、その中間でもいいしという感じなのかなと思います。

### 森田会長

ということは学校への復帰ということだけを目標にしないでください。それ以外のニーズもあるので、そちらの対応もして下さいという感じですよ。

### 佐久間委員

はい、そういう感じですね。

### 森田会長

では、そういうふうには書いたらいいかな。

### 佐久間委員

通いやすい教室と通いやすい教室の次の段階ですね。さらに引きこもりの子どもに対してもアプローチしていくような体制というかね、その3段階ぐらいが

### 川村委員

最後に持ってきたらどうですか。「学校に復帰することを柔軟に考える」というのを一番最後にして、今後かがやきに対しては、学校に復帰することを柔軟に考えるなどより子どもたちの通いやすい教室となるような議論を求めますとか。前文を踏まえた上でということですよ。上は上、下は下で昨今からは別の文章ではなく前文が繋がった上で学校に復帰するっていうことではなかったということですよ。

### 森田会長

じゃあ、前の段落をほとんど取って良いということですか。

### 川村委員

実績もある一方で、外に出たくないという子どももいて、そういう子どもに対してはそういう居場所も必要だからこそ、かがやきには学校に復帰というだけの目標ではなくて、いろんなことを考えてほしいという文章にしたらいと思います。

### 新谷委員

その3つということでしたら、1つが学校生活への復帰ですよ、もう1つは今削っているところを削ってもらって、より子どもたちが通いやすい教室にすべきだというのが1つですよ。3つ目はそれだけではなくて、外に出たくないという子どもに対しての機能ということなので、「学校に復帰することを柔軟に考えるなど」を消して。



## 森田会長

そのほうが分かりやすいですね。1つではなくて3つの機能があると。

## 新谷委員

「より子どもたちが通いやすい教室にすること」。「重度の「引きこもり」にいきなり繋げていいのか分かりませんが、「いわゆる重度の「引きこもり」の子どもに対する社会との接点、窓口としての居場所機能を求めます」、「いわゆる重度の「引きこもり」の子どもに対する、社会との接点または窓口といった意味での居場所機能を求めます」それで3つの機能があるということになるかなと思います。

## 森田会長

一回読んでもらっていいですか。

## 事務局（黒木教育総務課長補佐）

「一方、「適応指導教室かがやき」は「ここなら通える」といった子どもの声や実績もあり、子どもの居場所づくりという観点でも一定の役割を果たしていることから、引き続き必要な事業であると考えます。今後、子どもたちの「学校生活への復帰」という目標だけではなくより子どもたちが通いやすい教室にすることや、いわゆる重度の「引きこもり」の子どもに対する社会との接点または窓口といった意味での居場所機能を求めます」

## 森田会長

はい、分かりますが、居場所が2つ出てきますね。最初のは一定の役割といっているが、最後に社会との接点または窓口といった意味での居場所機能とってしまっていますね。社会の接点といった窓口機能。

## 新谷委員

窓口としての機能。

## 佐久間委員

部会内の議論で言うと窓口というより外に出てという議論でした。

## 新谷委員

じゃあ、窓口削ってもらってもいいですね。

それこそ議論に忠実に行くのであれば、「いわゆる重度の「引きこもり」の子

どもに対する社会との接点という意味でアウトリーチ型の機能を求めます」外に出てということですので。

#### 森田会長

アウトリーチを書いてしまってもいいかもしれませんね。

#### 佐久間委員

そんな議論でしたね。小林委員そういう議論でしたね。バスで迎えにいけたらいいなという議論でしたね。

#### 小林委員

はい、バスで迎えにいけたらいいなという。

#### 佐久間委員

一歩出るということがその子にとっての社会への第一歩だという議論でしたね。

#### 新谷委員

かなり積極的なことですね。今の時代にはあっている気がします。アウトリーチについては言葉の説明があると思いますが、アウトリーチは分かりにくいですかね。

#### 川村委員

居場所が、上の「居場所づくりという観点でも」という最初にでてきた居場所づくりを、前のページからは不登校問題から続いてきているので、「ここなら通えるという子どもの実績もあり、不登校対策という観点では一定の役割を果たす」という感じで、そこの居場所というのを違う言葉に変えてもいいんじゃないですか。

#### 森田会長

そこを取っちゃうかですよ。 「子どもの居場所づくりという観点でも」を取っちゃうと、実績もあり引き続き重要だけど。

#### 事務局（満永教育部長）

すいません、よろしいですか。

## 森田会長

はいどうぞ。

## 事務局（満永教育部長）

社会の接点という居場所は新たな接点ですよ。例えば「このような子どもたちに対しては社会との接点といった新たな意味での居場所づくり」として新たな意味の中にアウトリーチを考えていくそういうものにしていただくのはいかがでしょうか。新たな意味での居場所づくりの新たにアウトリーチを包含していただくのはいかがでしょうか。

## 森田会長

アウトリーチというのは居場所なんですかね。そこにくっ付かない気がしますね。おいでということですよ。

## 事務局（満永教育部長）

そうすると家庭が居場所になってしまいますね。

教育センターでは子ども悩み相談チームがあって、アウトリーチで出かけて行って相談をしています。そこと連携しながらできるかなと思います。できれば新たな意味で新たな視点でとしていただければ、考える裁量ができるのかなと思います。

## 森田会長

新たな意味でのですね。

## 事務局（満永教育部長）

社会の接点といった新たな意味での居場所づくりとしていただければ、様々な方策が考えられるかと思います。

## 森田会長

これ、社会の接点っていうのはちょっと説明が必要かもしれないですね。

もうちょっと具体的に言うとどういうことか、お迎えに行って、どう調子は？とか、出てこない？みたいな感じのことを言う、ということですか。

## 新谷委員

部会の議論をするのであれば、引きこもりの子どもに対してはこちらから出向くことも含めた、居場所、そういつちやうと限定されちやうからあれなんで

すけど、要は10代の子どもの引きこもりに対しても考えてください、ということなんですけども。

#### 森田会長

ニーズがあるから来てください、じゃなくて、こっちから行くってことですよね。そういうふうに書いたらわかりやすいんじゃないですか。いわゆる引きこもりの子どもに対して出かけていくとか、様子を見に行くとか、そのようなアクションを起こすとか、放っておかないということですね。引きこもりの子どもに対しても働きかけをしていくという、アウトリーチ型の機能を求めますと。

社会との接点が分かりにくいのかもかもしれませんね。

#### 小林委員

はい、分かりにくいと思います。

#### 森田会長

説明が必要になってきちゃうというかね。

#### 川村委員

社会とつながるための、とか何かもっと簡単な言葉にしては。

#### 小林委員

もうちょっと分かりやすいほうがいいですよ。

#### 森田会長

いわゆる重度の引きこもりの子にも、働きかけを行っていくという、アウトリーチ型の。

#### 新谷委員

重度の引きこもりの子どもに対する働きかけを求めます。

#### 森田会長

それでいいね。

#### 新谷委員

ただこれだと部会で話された具体的な中身がちょっと。

森田会長

まだ踏み込めていない？

新谷委員

踏み込めてないことになりそうですけども。

森田会長

放っておかないということですね。そのままにしておかないと。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

読みましょうか。

森田会長

読んでください。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

「一方で、適応指導教室「かがやき」は、ここなら通えるといった子どもの声や実績もあり、一定の役割を果たしていることから、引き続き必要な事業であると考えます。今後、子どもたちの学校生活への復帰という目標だけでなく、より子どもたちが通いやすい教室にすることや、いわゆる重度の引きこもりの子どもへの働きかけも求めます。」

佐久間委員

いいんじゃないですか。

森田会長

言いたいことははっきりと分かったと思うんです。

新谷委員

やっぱり3段階あるということですね。

森田会長

とすれば、この外に出たくないというのも、活かしてもいいかもしれませんね。

「…教室にすることや、昨今外に出たくないといったいわゆる重度の引きこもりの子どもへの働きかけも求めます。」と言えば、ああ、外に出て行きなさい

と誘いに行くんだなあという感じがして、いいかもしれないですね。

すいません、もともとの文章が不十分で、時間をとってしまっています。大体こんな感じでよろしいですか。その他はいいでしょうか。今のところはいいですね、これで。

(3)は、その他、スマホはスマートフォンにしてもらって、後はいいでしょうか。

よろしいでしょうか。じゃあ、この部分はこれでいいとして、(4)のほうにいきましょうかね。

### 川村委員

昨今については。

### 森田会長

ここですか？昨今。

昨今入れてもいいかもしれないですね。

### 佐久間委員

昔と違ってっていうことですね。

### 森田会長

昔と違って新しいタイプの、ということですね。じゃあ昨今、入れておいてください。はい、ありがとうございます。よろしいですか。

はい、じゃあ、4番に行きたいと思います。よろしくお願いします。

### 中野教育総務課長

「(4) 門真の子どもたちの自己実現に向けて。新学習指導要領の全面的実施を見据え、新しい時代に必要となる資質と能力を育成に力を注ぐ必要があります。社会に開かれた教育課程の実現を意識し、市として、以下の取り組みを求めます。

①キャリア教育のさらなる推進。現在、中学校においては、自己実現、自己確立に向けて、自ら主体的に将来を切りひらくキャリア教育について、職業調べ学習や、職場体験等さまざまな取り組みが行われており、望ましい職業間、勤労観を育成することにより自分の将来を意識しながら学習活動に取り組んでいるとのことで、ゲストティーチャーの活用にも積極的に取り組み、子どもたちの学習意欲をかき立てています。一方小学校におけるキャリア教育では各校の取り組みの方法や、コンセプトも違うとのことから、小学校の中で、キャリ

ア教育が学年を通して系統だったものになっているか、それがどのように中学校につながっているかという点では、現状、改善する点も少なくないと考えます。今後小学校においても、発達段階に応じたキャリア教育プログラムを作成するなど、具体的な取り組みを推進するとともに、子どもたちが夢を持ち、自ら将来の進路を切りひらく力を身に付けることの大切さを、保護者が理解して、子どもたちに積極的に働きかけること、地域の良き大人との出会いを通して、子どもたちの中に、このような人になりたいという憧れの気持ちを持つことも大切であり、地域家庭との連携も行いながら、小学校・中学校の連続性を大切にした系統的なキャリア教育を各中学校区で進めることを求めます。また、昨年度の全国学力・学習状況調査では、生徒質問紙の「将来の夢や目標を持っていますか」という問いに対して、門真市の中学生の肯定的回答の割合は全国や大阪府と比較して遜色はありません。一方小学校の児童質問紙の同様の問いに対して、門真市の肯定的態度の割合は国より 7.2 ポイント、府より 5 ポイント低くなっています。加えて平成 28 年に行われた、大阪府の子どもの生活実態調査においては、「大学まで進学したい」と回答した門真市の子どもの割合は、大阪府平均より 8.6 ポイント低かったという結果も出ています。子どもたちが将来の夢を持ち、大学等の高等教育機関への進学や、進路選択や職業に関する様々な情報を得て、モチベーションを高めるためには、多様なゲストティーチャーと接することは非常に有効であり、子どもたちの学習意欲向上に関しても効果が認められることから、さらなる人材発掘や市としてのリスト作成も重要であると考えます。また現在、自ら進路を切りひらくために、必要な力や、主体的に進路を選択できるようになるための意欲を高めるための方策については、市内の中学校において進学フェスタとして、高校紹介の取り組みが実施されていたり、面接練習に地域の方々が協力したりするなど、積極的な取り組みが行われていますが、より確実に子どもの個別のニーズを受け止める存在が必要であると考えます。さらに門真市では、大学進学を視野に入れている子どもが、大阪府の平均よりも少ないという事実があります。大学進学は将来の選択肢を増やし、可視化することであり、大学を身近に感じられない子どもたちに対して、大学とはどういった所なのか、大学生はどんな存在であるのかなど、大学生とのふれあいや、キャンパス訪問などを通して知らせることが、将来のために勉強するというモチベーションの向上にもつながると考えます。門真の子どもたちが、大学生や社会人など、よき大人のモデルと出会えるような居場所づくりを行うことも、門真の子どもたちが自分自身の未来図を描く際に有意義なことであり、そのような学生や大学等の高等教育機関を身近に感じとることのできるような取り組みが必要であると考えます。」

## 森田会長

はい。そのまま行っちゃいましょうか、②まで。英語教育の充実について。

## 中野教育総務課長

「②英語教育の充実。グローバル化が進む中、小学校英語の教科化など、英語教育の充実を図ることは喫緊の課題となっています。門真の子どもたちが将来の夢を持ち、視野を広げて、様々な分野で自己実現していくにあたり、英語の力を備えているということは非常に意義のあることだと思います。全国学力・学習状況調査において、国語、算数・数学は、向上の傾向にあるものの、大阪府教育庁が実施しているチャレンジテストにおいて、本市の英語の結果は必ずしも良いものとは言えず、新学習指導要領の大きな改正ポイントである英語教育の成実は、大きな課題であると思われます。英語教育の充実を目指して、様々な取り組みが求められますが、特に子どもの興味関心を高めるために、教科横断的な取り組みが必須であり、完全実施の際に、子どもたちに指導要領に則って適切な指導が行われるよう、環境整備に努めなければならないと考えます。加えて教材の研究はもちろんのこと、外国語教育支援員等の人員的な支援と、評価に関わることなど、教師の専門性を向上させる研修も必須です。中学校においては、英語による授業も行われることから、英語教員の英語力向上に向けた取り組みも不可欠であります。教師の多忙化が取り沙汰される中で、必要な研修について、精選を行い、取り組んでいく必要があるとともに、小・中学校の一環した英語教育の構築を求めます。また英語学習への意欲を高める工夫を凝らした仕掛けも大切です。学校以外の場面において、子どもたちが英語に触れる機会を増やすことを目指し、現在実施している公民協働による、めざせ世界へはばたけ事業、KEIK、英語で楽しむお話し会などの各種事業を充実するとともに、学習指導要領改訂というタイミングを活かし、小学校においても、外国の子どもたちと英語を媒体としてコミュニケーションを取れるような取り組みを活性化することも有効であると考えます。さらに外国や外国文化に関心を抱かせる取り組みを充実させることも大切であり、世界の歴史や地理、美術や音楽など、教科横断的に外国に触れさせる機会を意図的に増やすことを求めます。とりわけ今年度から始まった海外からの子どもたちを学校に招く「ようこそ門真へ国際交流事業」の検証改善を進め、他文化を知り、違いを認め合い、視野の広い子どもの育成を求めます。」

## 森田会長

はい、ありがとうございました。ちょっと長かったですけど、(4)全部読んでもらいました。まず、構造はお分かりになったと思うので、①の部分について、



少しご意見出していただけたらと思います。

#### 国吉委員

はい。

#### 森田会長

お願いします。

#### 国吉委員

①のところ、まず2行目ですが、「切りひらく」の「ひらく」は、手へんに石です。同じページの下から2行目の「切りひらく」、これも同じです。

#### 森田会長

はい、ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

#### 川村委員

はい。そもそもとして、キャリア教育が、中学校ではなされているけれども、小学校では全くダメだ、みたいな捉え方も、読み方によってはできてしまうかもしれません。「中学校においては、子どもたちの学習意欲をかき立てています」と書いたあと、「一方小学校におけるキャリア教育では、と書いているので。その最後に検証改善すべき点も少なくないと考えます」となると、中学校ではできているけど、小学校ではどうなんだ、みたいな感じに捉えられるんです。私は自分の子どものことを考えたり、近所の子を考えたりすると、中学校でのキャリア教育で職場体験などはいいと思うし、それを例にするなら、小学校でも、どんな取組をしているのかという例を入れるとか、「かき立てています」とまで言い切ることが、本当に正しいのか。私はかき立てられている子もいれば、かき立てられていない子もいて、そういう子どもたちに、どんなキャリア教育を考えていくのかっていうのが大切だと思うので、小学校でもやっているし、小・中が一貫してつながりのあるキャリア教育をどのように行っていくのかということ、最終的に持って来た方がいいのでは、と思いました。

#### 森田会長

書き方がこれでいいのかということですね。どうでしょうか、こういう書き方で、ちょっと違和感ありますか。斎藤委員どうでしょうか、小学校では。

### 齋藤委員

おっしゃる通り、小学校でも、ゲストティーチャーを呼んだりしていますので。ただ、確かに系統的な部分というのは弱いかもしれません。行っていることはたくさんあると思います。

### 国吉委員

加えていいでしょうか。各中学校区で、小中一貫として集まりがあるんですけども、その中で、キャリア教育に関して、小学校ではこれだけのものやっけていく、中学校ではこれだけのものやっけていくというのが、計画的なものが出ています。学校教育計画に載っていると思います。ですので、そこまです小学校はやっていないという雰囲気書かれると、少しどうかと思うんですけど。

### 森田会長

わかりました。最初の3段落目位までの、書きぶりについてだと思います。とすると、まず1段落目の最後の、「学習意欲をかき立てています」というのは本当なのか、という話がありましたけれども、ゲストティーチャーの活用に積極的に取り組み、子どもたちの学習意欲を。

### 国吉委員

子どもたちの「たち」はひらがなですね。

### 佐久間委員

職場体験学習は、子どもたちは割と楽しんでやっていますよね。大好きというか。

### 川村委員

それが、学習意欲につながっているかっていうところで、学習意欲をかき立てているってことです。ただ授業じゃないから楽しいっていう子もいると思うんです。もちろん、職業とか、将来についての学びにはつながっていると思うんですけど。

### 森田会長

この「かき立てています」というのは取ってもいいかもしれないですね。今、中学校においてはこういうことをやっていますと。学習意欲だけが成果

やないと思いますし、学習意欲が取り立ててここで強調されるのもおかしいと思うので、ゲストティーチャーの活用にも積極的に取り組み、成果を上げてきていますと。

#### 川村委員

学習意欲かき立てています、まで書いて、一方小学校は、ってなったらね。

#### 森田会長

格差がありすぎると。ちょっと小・中の対比の仕方が、少し強烈すぎるんじゃないか、ということですが、修正の方向で進めてよろしいですかね。どのようにしていきましょうか。

#### 佐久間委員

仮にですけど、2段落目は全部カットしてしまって、3段落目の最初に、現在小学校でも、例えばこんなことやあんなことをやっていて、それをより系統的なカリキュラムにしていくんだ、みたいな書きぶり程度でいいのかなと。

#### 森田会長

なるほど2段落目をなくしてしまうとかなり自然になると。

#### 佐久間委員

さらに、小学校では今やってないみたいになんか見えませんから、現在、例えばゲストティーチャーを招いたり、地域に出て行ったりするのもキャリア教育だと思いますし、学校探検や社会科の調べ学習などもキャリア教育に入りますので、あるいは低学年ならあいさつをするなんかもキャリア教育ですので、小学校でもいろいろやっているけれども。中学校との系統性をより明確にしていこうというだけで十分かなと。

現在、小学校でも行っているキャリア教育、キャリア教育ってあんまり小学校では言っていないませんか。何て言っていますか。

#### 国吉委員

キャリア教育という言葉は、我々教員が使っています。子どもたちにはそんな言い方しないですけども。

#### 中川委員

中学校でも、子どもたちにキャリア教育と言って使っているわけではないで

す。

### 国吉委員

具体的に言えば、校区めぐりみたいなものを、低学年でもやりますけれども、それも一環ですし、4年生の二分の一成人式なんていうのもその一つです。

### 森田会長

そしたらこの2段落目が先程の印象を強くしているような感じがしますので、2段落目を取っちゃうというのは、ひとつ、ありかなと思います。全体的に影響があるかということ、現在中学校においては、が第1段落目なんで、第2段落は小学校においても、こういうことをやっていますというふうにして、しかし課題があるのは、接続部分です、とか体系化の部分です、というようなことが、ここに書かれていたらいいのかな。

ただ、3段落目の後半部分は、中学校区に対する求めであって、小学校でやってることってというのは、発達段階に応じたキャリア教育プログラムを作成するなど、具体的な取り組みを推進していますと。すいません、ちょっとこの3段落目の文章が長いので、一緒にちょっと短くしたいと思います。新谷委員、何か案はないでしょうか。

### 新谷委員

これ2段落目消すんですね。そこを消して。

### 森田会長

まず、最初1段落目ですが、中学校において何をやっているのかっていうことを書いているんですけど、最後の方を読むと、自分の将来を意識しながら学習活動に取り組んでいて、ゲストティーチャーにも取り組んでいて、となって取り組みが2つ重なるのでどっちかにした方がいいと思うんです。

### 新谷委員

まず、小学校においても様々な取り組みがある、ということは言っておかないといけないと思います。

### 森田会長

言っておかなければいけないと。その時に言っておくべきことはどういうことでしょうか。

### 佐久間委員

あんまり細かくやり出すとたくさんあげなければならないので、ザクッと言えば、「生活科や総合的な学習を中心に」とか「社会科などを中心に」とか。

### 森田会長

そういう言い方がいいかもしれないですね。「小学校でも生活科や社会科、総合的な学習等を通して、キャリア教育に取り組んでいるところです」と。

### 佐久間委員

それくらいの方が。ただあんまりキャリア教育と思ってやっているかどうか分からないので、そういうことが、むしろ系統立てられていないということの問題点だと。中学校であれば職場体験のように明確なものがあるので、いかにもキャリア教育なんですけど、小学校は、そうと気づかない先生方がやっていたりもしますし。

### 国吉委員

今、小学校では、従来やっていたいろんなものを、これは、実際のところキャリア教育に当たるんだと、全部つなげていると思うんですね。

### 川村委員

逆に聞きたいんですけども、じゃあ中学校のキャリア教育っていうのは、職業体験だけでいいのかという話になるんですけども。

### 森田会長

そうですね。キャリア教育の考えは最近変わってきていますからね。今までのキャリア教育ではない、新しいキャリア教育をしていきたいと思いますという新しい答申が文科省からも出ましたよね。それは職業教育からの脱皮なんですよね。進路指導じゃないんですよキャリア教育は、ということだったと思うんです。そこは踏まえないといけないかな、という気は確かにするので。

### 佐久間委員

その辺りの本質的な話は、部会の中では横貫さんを中心に、面白い議論があつて。

### 森田会長

中学においては、というのはこの1段落目を活かして、小学校においても、

総合的学習の時間や、生活科や、社会科の中で、取り組みが、キャリア教育の  
カリキュラムの導入が図られてきたところです、みたいな感じでいいですか。

それで、小・中の連続性というところにおいて、少し段差があるかもしれま  
せんね、ということが、ここでは言えたらいいのかな。

#### 佐久間委員

そうですね。

最後の保護者が理解して、というところも言葉としてはよくわからないとこ  
ろもあるんですが。

#### 森田会長

そうですね。カットしましょうか？

#### 佐久間委員

何か意図があったのかなあと、ちょっと思い出そうとしてるんですが。何か  
保護者の責任を問うていましたっけ。あんまり覚えていないんですけど。

#### 川村委員

一般的には、ここの文章、小学校において、保護者の働きが大事な感じに捉  
えられてしまいますけど、本当なら小学校よりも中学校の方が、将来により近  
くなっている分、だんだん子どもの手が離れて親子の関わりが薄くなっている  
中学校の方が保護者が理解して積極的に働きかけることが大事なのかなという  
気もしますが。

#### 森田会長

これ、ちょっとすみません、社会科も入れてもらえますか。

#### 佐久間委員

じゃあ、順番を、生活科、社会科、総合でいきましょう。

保護者が理解するところが、若干違和感があるんですけども、どんな  
文脈で出てきた言葉でしたっけ。

#### 森田会長

保護者の協力も必要だということですか。

#### 佐久間委員

まあそんなイメージなんですかね。それだったら構わないですけど。保護者が理解していないというように見えてしまって、それは何となく違うような気がするんです。

### 森田会長

この、3段落目の最後、地域、家庭との連携を行いながら、小学校・中学校の連続性を大切にされた系統的なキャリア教育を進めるんだけど、その時に、「あのような人になりたいという憧れの気持ちだとか、地域の大人との出会いだとかが入ってくるのかな。

### 新谷委員

文章がわかりやすくなるように、「子どもたちが」から「大切である」までに一回ちょっと後ろに回した方がいいんじゃないでしょうか。前の文章を修飾するようなかたちにして。

### 森田会長

いいんじゃないですか。ただ、「大切」というのはもう一つあるから、前半の「大切」を「重要性を」とかにして。保護者の理解はどうでしょうか。保護者が理解して、働きかけることを、保護者が夢を奪うというか、「もうそれでいいんじゃないの」「大学なんて行かなくても何とかなるよ」という、そういうような保護者じゃなくてみたいな意味じゃなかったかな。

### 佐久間委員

ロールモデルは少なくとも学力の関係があるみたいなことが出ていると思うので、「協力し」ぐらいのほうがいいのかな。

### 森田会長

保護者とともに、自ら進路を切り開く力を。何かそれはおかしいな。保護者も理解して、でしょうね。

### 川村委員

「理解し」は、その後の「働きかけること」までつながるんですよ。重要性を保護者が理解し、子どもたちに積極的に働きかけること、で、地域の良き、ってというのは後にして、子どもたちの中に、あのような人になりたいという憧れの気持ちを持てるような、地域の良き大人との出会いの場を作ること、を求めます、みたいな。何かそんな感じで。

## 森田会長

いいじゃないですか。ちょっと読んでみてもらえますか。

## 事務局（黒木教育総務課長補佐）

「今後も、地域、家庭との連携を行いながら、小学校・中学校の連続性を大切にされた系統的なキャリア教育を各中学校区で進めることを求めます。その際、子どもたちが夢を持ち自ら将来の進路を切り拓く力を身に付けることの重要性を保護者が理解して、子どもたちへ積極的に働きかけること、子どもたちが、あのような人になりたいという憧れの気持ちを持つような、地域の良き大人と出会えるような仕組みづくりを求めます。」

## 森田会長

いいんじゃない。今後も、求めます、その際、求めます、になっているかな。

## 片山副会長

「ような」という言葉も多いですね。

## 森田会長

憧れの気持ちを持てる大人と出会うことができる仕組みづくり。

## 新谷委員

「求めます」が続くので、前の文章を変えていただきたいんですけど、「今後も」のところを、「今後の課題として」としていただいて、その後の「キャリア教育を各中学校分を進めることが挙げられます」にさせていただいたら。

## 森田会長

いいですね。はっきりしてきますね。

## 新谷委員

あと、その下の段落の部分で、「また」のところを、「ただし」にしておいていただきたいです。何故かという、これまでキャリア教育をやっているにもかかわらず、成果は十分に出ていないという文脈だと思うので、その後の段落で、ゲストティーチャーの話になるんですけども、「モチベーションを高めるための」にさせていただけますか。で、その後が「ゲストティーチャーを交えたキャリア教育の研究を引き続き行うとともに、さらなる人材発掘や市として



のリスト作成も重要であると考えます」にさせていただいた方がいいかなと思います。

### 川村委員

全国学力・学習状況調査結果の、中学生は遜色がありません、小学校は、っていうところも、それやったら、中学校の部分は消して、どちらも頑張ろうみたい感じにした方がいいのでは。中学校は遜色ありません、じゃあ、中学校はいいのか？という気持ちもあるので。

ちょっと前に話をしていた、子どもの答え方によって、本当の真意を突いてちゃんと答えているかっていうところもよくわからないので、遜色はありませんでいいのかなあという気がしたんです。比べるのはどうなのかなあと思いました。

### 森田会長

今の川村委員のご指摘は、小・中の対比の仕方が少し、フェアなのかという意味も含め、あからさまなのではないかと。どうですかね、皆さん。これは部会ではどのような感じで話し合われたのでしょうか。これ、小学校では差が大きいけど中学校では差が縮まっているというのは、何かあるんでしょうか。

### 事務局（満永教育部長）

確かに、小学校では将来の夢を持っている子は 7.2 ポイントで、府よりもかなりの有意差があるんです。ところが中3に聞いてみたら、結構それが縮まっていたりとか、子どもの貧困実態調査でも、将来の夢を持っているというような子どもは、府の平均よりも高い状況があります。一定小学校の段階で低いのが、中学校に行って府とほとんど差がなくなっているということは、これは偶然ではなく、何かがあるだろうと。そこには、中学校ではキャリア教育イコール職場体験という考え方ではなく、全ての教育活動を社会に開かれたカリキュラムということで、英語の授業でもワールドトレードとか、南北問題を扱ったりとか、そういうことをやり始めているんです。だから、やはり中学校におけるキャリア教育というものは一定、門真ではしっかりとやっているというイメージがあります。しかし小学校においては、先ほど委員のお話にもありましたけども、これがキャリア教育だと認識しているのかということがあると思うんです。社会でやっている、この教科でやっている、でもここでやっているのが、中学校でのキャリア教育にどうつながるのか。キャリア教育の一環で今のお店調べがあるんだというような認識は、小学校ではやはり低いのではないかなと思うのです。私の中学校での校長の経験から言いますと、やはり、中学校で

はそのあたりの意識は高かったという記憶があります。その結果がこの定性的な検証ではありますけれども、全国学力・学習状況調査に連続的に、経年的に表れておりますので、やはり中学校の取り組みについては、府の平均ぐらいですから、いいとは言えないかも知れませんが、何らかの効果はあるのではないかと、という見方を我々としてはしております。

#### 新谷委員

じゃあ、やっぱり「ただし」のこの段落は、接続の問題を導くためのデータになるはずなので、前の段落に持ってこなければいけないということですね。「ただし」の段落を、「今後の課題として」の段落の前に、全部持ってきたほうがすっきりしませんか。

#### 森田会長

中学校ではこうやっています、小学校でもこうやっています。しかしデータを見るとこんな感じになっています。だから今後の課題としてはこういうことが言えますと。

#### 新谷委員

決して、小学校が悪いということではなくて、接続の問題なんだというような結論にしたら、一方を貶める形にはならないかなと思うんですけども。

それか、「結果も出ています」の後に一文をつけて、これは小学校・中学校それぞれの問題ではなくて接続の問題と考えられます、ぐらいを明記しておくといいかなと思います。

#### 森田会長

でも、接続の問題なのかな。

#### 新谷委員

だけでもないのかもしれませんが。それはわかりませんよね。接続の問題という可能性も指摘できます。考えられます。かな。

#### 新谷委員

実際に、多分小学校では、キャリア教育としてやっていないからこそ、意識されていないという問題があると思うので、小中一貫したプログラムというのは必要かなと思います。

### 森田会長

「加えて」のところの、子どもの生活実態調査というのは、小学生のデータでしたっけ。小・中のデータでしょうか

小・中合わせて、8.2ポイント低かったと。

### 新谷委員

大学に進学したい、については、後に持ってきたほうがいいのかな。

この、子どもの生活実態調査のデータってというのは、その後に来る、進学フェスタとか、その辺を説明するデータになると思うので、切り取ったほうがいいんじゃないかなと思うんですけど。

### 中川委員

「さらに」のところから、「事実があります」のところまでが、それのことなので、そこまで削ってもらったらいいと思います。

### 森田会長

同じことを言っているからね。

じゃあちょっともう一回上に戻ってみましょうか。

①の最初から読んでもらいましょうか。

### 事務局（黒木教育総務課長補佐）

「キャリア教育のさらなる推進。現在中学校においては、自己実現、自己確立に向けて自ら主体的に将来を切り拓くキャリア教育について、職業調べ学習や職場体験等、様々な取り組みが行われており、望ましい職業間、勤労観を育成することにより、自分の将来を意識しながら学習活動に取り組んでいるとのことで、ゲストティーチャーの活用にも積極的に取り組み、成果を上げています。小学校においても、生活科、社会科、総合的な学習の時間等において、発達段階に応じたキャリア教育プログラムを作成するなど、具体的な取り組みを推進しています。ただし、昨年度の全国学力・学習状況調査では、生徒質問紙の「将来の夢や目標を持っていますか」という問いに対し、門真市の中学生の肯定的回答の割合は、全国や大阪府と比較して、遜色ありません。一方、小学校の児童質問紙の同様の問いに対して、門真市の肯定的回答の割合は国より7.2ポイント、府より5ポイントも低くなっています。これは小学校・中学校の接続の問題のという可能性も考えられます。今後の課題として、地域、家庭との連携を行いながら、小学校・中学校の連続性を大切にした継続的なキャリア教

育を、各中学校区で進めることが挙げられます。その際、子どもたちが夢を持ち、自ら将来の進路を切り拓く力を身に付けることの重要性を、保護者が理解して、子どもたちへ積極的に働きかけること、子どもたちがあのような人になりたいという憧れの気持ちを持てる地域の大人と出会うことのできる仕組み作りが重要だと考えられます。子どもたちが将来の夢を持ち、大学等の高等教育機関への進学や、進路選択や職業に関する様々な情報を得て、モチベーションを高めるための多様なゲストティーチャーを交えた教育の研究を引き続き行うとともに、さらなる人材発掘や、市としてのリスト作成も重要であると考えます。」

#### 森田会長

はい。まずはとりあえずそこまで。

#### 中川委員

すいません、最後のところなんですけども、子どもたちが将来の夢を持ち大学等の高等教育機関への、進学や進路選択や職業に関する、っていう部分がちょっとくどいかなと思います。進学や、職業に関する、にして、進路選択や、をなくしたほうがいいと思います。

#### 新谷委員

あと、小学校のデータの説明の中で「府より5ポイントも」、の「も」を取ってもいいかなと思います。「5ポイント低くなっています」でいいと思います。

#### 森田会長

その下の「接続の可能性」っていうのが、やっぱり。

#### 新谷委員

ひっかかりますね。

#### 森田会長

取っちゃってもいいんじゃないでしょうか。要するにうまくいっているところもあるけれども、うまくいってないところもあるんだと。今後の課題は、接続を考えていって下さいねと。それぞれ小学校も頑張っているし中学も頑張っているけど、接続を重視したり、保護者との連携を重視したりして、この課題を乗り切って下さいみたいな。そういう感じに言うのがいいのかもしれないですね。そんな感じですかね。ここのところは。

### 川村委員

市内の中学校において、実施されていたりってというのが、市内全部の中学校で実施しているかのような取り方をしてしまうんですけども、全部の中学校で、進学フェスタとか、面接練習について地域の方々が協力しているわけではないんだったら、取り組みをしている学校もあり、みたいな感じで、全部の学校でやっていると思えられないような表記方法にしたほうがいいんじゃないでしょうか。

### 森田会長

これは全部ではない？

### 中川委員

全部ではないです。

### 森田会長

それなら、市内の一部の中学校においてとか、そういうような方がいいですね。

これ、やっているのは大部分の中学校ですか。

### 中川委員

はすはなが始めて、そのマニュアルをいろんな学校が持って帰って、各学校でも検討を始めている段階です。

### 森田会長

じゃあ一部のほうがいいですね。

### 中川委員

あと、はすはなもそうなんですが、府も、「進学フェア」で統一していますので、フェスタよりフェアの方がいいと思います。

### 森田会長

はい、ありがとうございます。ここから①の後半部分について、いかがでしょうか。

### 中川委員

一番最後の段落は、先程の今後の課題とほぼ同じことを言っているんですけど、大事だから繰り返すのか、統合してしまうか。

#### 新谷委員

削ってもいいんじゃないですか。あまりにも（４）のところが長いので。

#### 森田会長

確かに。これで大体、言い尽くせていますかね。

#### 事務局（黒木教育総務課長補佐）

先ほど、川村委員からありました「遜色ありません」の場所は大丈夫でしょうか。

#### 川村委員

大丈夫じゃないでしょうか。それがあから、次に小・中の連携につながると思うので、あえて入れておいてもいいと思います。

#### 森田会長

ここは、「ただし…遜色ありません」だとおかしいですね。

ここは、差がないという意味で、「同程度である」と。そういうふうにしましょうか。

これで意味は通じるかな。はい、ありがとうございます。

①、良さそうですけど、もう一回読んでみますか。後でまとめて確認しましょうか。

じゃあ、次に行きたいと思います。

②、英語教育の充実、さっきもう読んでもらったんですけど、お気づきの点をご指摘ください。

#### 国吉委員

よろしいでしょうか。英語教育の一番目のまとまりのところなんですけども、新学習指導要領の、「大きな改正ポイント」と「大きな課題」と、「大きな」が何回も重なるので、最初の「大きな」はいらないんじゃないかなと思います。

#### 森田会長

はい、そうですね。その他はいかがでしょうか。

### 川村委員

その2行目なんですけど、「の」が1つ足りないです。

### 森田会長

なるほど。あと、一段落目の最後の「思います」は、「考えます」とかの方がいいかもしれないですね。

### 片山副会長

よろしいでしょうか。下のほうになるんですけれど、4段落目の、「また、英語学習の」のところにあります、めざせ世界へはばたけ事業、これは部会の中で充実ではなく内容の見直しを求めたいきさつがあるんですけれど、結局のところは、オーストラリアに行く人数が限られている中で、予算を数名に集中させてしまうっていうのがよくないんじゃないでしょうか、という意見を出させてもらったんです。できれば、もともと意識の高い子に予算を集中させるのではなくて、ボトムアップを図れるような事業にしたほうがいいんじゃないか、というお話をさせてもらったいきさつがあります。

### 森田会長

ということは、充実という言葉であれば今のところが少し入りにくいですね。それはめざせ世界へはばたけ事業の部分だけですか。その他のものは、充実でいいでしょうか。

### 片山副会長

英語で楽しむお話し会は、私は把握できていないんですけれど、KEIK はもともと、参加費が発生するものなので、お金を出してでも行かせようという意識のあるところの事業を充実させていくというのはわからなくもないんですけれども、めざせ世界へはばたけ事業と KEIK とは、色が違うんじゃないかと。

### 森田会長

どうすればいいでしょうかね。

### 新谷委員

「各種事業を見直し、充実するとともに」ぐらいにすればどうでしょうか。確かに、おっしゃるとおり、ボトムアップの事業に転換すべきだというようにお話がありましたので。

### 森田会長

片山委員、これで大丈夫ですか。

### 片山副会長

はい。ありがとうございます。

### 国吉委員

その2行下、「子どもたち」の「たち」はひらがなでお願いします。

### 川村委員

その上の、「タイミングを生かし」の「生かす」が、活用の「活」ですね。その前にも「活かす」という言葉が出てきたんですけども、その時は活用の「活」だったので。

### 佐久間委員

あんまり言いたくないんですが、2段落目が何となく嫌で、それでは議論にならないんですけど、「英語教育の充実をめざして様々な取り組みが求められます」はいいんですけど、「特に子どもの興味関心を高める」もいいんですけど、「教科横断的な取り組みが必須であり」とか「学習指導要領に則って適切な指導が行われるよう」とか、ものすごく我々、文部科学省的なというか、そんな感じでもないような気がするんですね。下の方で、例えばもっと具体的な柔らかい言葉がのっていたりするので、「指導要領に則って適切な指導が行われるよう」とか、無理になくても、子どもたちの興味関心を高めるために教材研究や外国語活動支援員の支援とか、教科の専門性を高めるとか、いろんな研修が必要だっていうのはわかるんですけど、何か高圧的な感じがするなど、思っただけを見ていたんですけど。何か、こう書かなければならない事情があるなら、これ以上議論はしませんけれども。

### 新谷委員

多分これは、上がいうから、予算措置をしてくれよという話になってるんじゃないのかなと思いますので、つなげるとすれば、前の段落の「新学習指導要領の改正ポイントである英語教育の充実も大きな課題であると思われま

す」の後で、次の段落の英語教育のというところから、考えますまでを削っていただいて、上の段落にポンとくっつけてしまうといいかなと思います。



**森田会長**

一文全部取っちゃうと。

**新谷委員**

はい。それでいいかなと思います。

**森田会長**

はい。その他はどうでしょうか。

子どもたちの「たち」を全部変えて下さい。漢字になってるものを全てひらがなに。その他いかがでしょうか。

**事務局（満永教育部長）**

一点よろしいでしょうか。2段落目と3段落目に、それぞれ「教師」という表現がありますけれども、これは「教員」にした方が良くと思います。

**森田会長**

はい、教師は教員に統一しましょう。良さそうでしょうか。②は。

**事務局（満永教育部長）**

もう一点、見直し、充実という言葉を使っているんですけども、検証という言葉で表現してはいかがでしょうか。

**森田会長**

検証ですね、わかりました。片山委員よろしいでしょうか。

**片山副会長**

はい、大丈夫です。

**森田会長**

②はじゃあこれでよさそうですかね。

それでは（5）に行きたいと思います。よろしく願いいたします。

**事務局（中野教育総務課長）**

「（5）門真の子どもたちへの支援に向けて。昨今、子ども理解の複雑化、児童虐待、子どもの心のケア、様々な課題を抱える子どもたちへの対応等、あら

ゆる子どもの問題に対して、その全てを学校だけで対応することの限界が指摘されています。学級指導に生徒指導、保護者への対応に加えて、新学習指導要領における道徳や小学校英語の教科化、プログラミング学習の導入等、学校教員の業務内容は多岐にわたっており、他職種の専門家と連携協力しながら、役割分担してチーム学校として子どもたちと向き合っていくことがますます大切となっています。特に門真市における児童生徒の問題の背景には、厳しい家庭環境等が影響していることが十分考えられることから、その支援については、子ども自身だけではなく家庭、保護者に対する支援についても考えていく必要があります。また、子どもたちの課題の背景となっている、家庭環境の厳しさは想像に難しくなく、そのような厳しい環境にある保護者の思いを、受容し共感することが支援の第一歩となることから、その頑張りを認め、励まし、支えていく人材ができる限り多く存在することが望ましいと思われます。現在、子ども部で実施している子どもの未来応援ネットワーク事業の趣旨も活かし、教職員はもとより教員 OB や地域人材など、様々な人的リソースを活用しながら、子どもと家庭を支援していく人材を増やしていくことが必要です。様々な関係機関との連携が、家庭保護者支援の鍵となることも多く、そのための人材として SSW や SC 等の適切な活用も必要であると考えます。そのためにはチーム学校の考え方を門真市において推進し、国府に対して早期の SSW、SC の配置を強く働きかけていくとともに、市独自による先行配置についても、モデル校を設定するなどして一部において実施し、効果を検証していく必要があります。チーム学校の考え方のもと、教職員と様々な関係機関が役割分担をしながら協働することは、教職員の働き方改革にもつながり、ひいては、子どもたちと向き合う時間の確保にもつながるものと考えます。また進学にあたっては、公的な支援も必要です。国は大学等の高等教育機関進学について、低所得者層に対する厚い支援を考えているようです。門真市においては高等学校進学に向けて、門真市奨学金制度を独自に作り、意欲のある生徒に対して、給付という形で実施していることは評価できます。しかし、家庭の経済状況や社会の情勢は常に変化し、そのすべての課題に対応しながら生徒を支援していくには、制度の見直しも必要になってきていると思われます。今後、制度のあり方や選考方法の見直しを行ったり、学校の提供する情報と子どもや家庭が必要とする情報の違いを整理して、ニーズに合った情報を提供できるようにしたりするなど、門真市奨学金制度の改善に向けた検討を行うことも必要であると考えます。」

## 森田会長

はい、ありがとうございました。ここで見直してというのがありましたけど

も、ここは大丈夫ですか。検証にしますか。ここは、見直していいのかどうかも含めて、また教えてください。

それから、SSW や SC っていうのは、最初のほうはスクールソーシャルワーカーと書いていたので、統一するかどうか、ちょっとご意見をいただければと思います。どっちかに統一した方がいいと思うんですが、どっちに統一しましょうか。

#### 佐久間委員

最初のほうがいいと思います。

#### 森田会長

はい。その他いかがでしょうか。

#### 新谷委員

教員 OB の OB だけ全角になっているので、数字も含めて全角半角の統一をしていただければ。

#### 森田会長

全て半角がいいでしょうかね。

#### 佐久間委員

OB っていうのは、オールドボーイの略ですか。

#### 森田会長

そういう意味では OB っていうのはやめたほうがいいのかもしいですね。元教員にしましょうか。

#### 事務局（三村学校教育課長）

よろしいでしょうか。先ほどはご指摘いただいた制度の見直しというところですが、先ほど「制度の見直し」のところを検証にさせていただいて、その後の「今後の制度の在り方や選考方法の見直しを行ったり」という、具体的な部分については見直しのままでいいかなと思います。

#### 森田会長

はい、わかりました。その他いかがでしょうか。

### 片山副会長

「働き方改革につながり、ひいては」っていう部分の「ひいては」っていう言葉の使い方が正しいかどうか、ちょっと教えていただきたいんですが。接続詞として。

### 森田会長

ちょっと調べてもらえますか。  
調べていただいている間、他にあれば。

### 事務局（満永教育部長）

「ひいては」については、これは削ってもよいのではないのでしょうか。

### 森田会長

分かりました。なくてもいいということですね。  
あとはよろしいでしょうか。  
ここはそんなに難しいところはない、認識は一致しているところかなと思います。「終わりに」もいっちゃいましょうか。お願いします。

### 事務局（中野教育総務課長）

「3、終わりに。平成28年11月1日から本日まで、1年10カ月間にわたり、本審議会は、学識経験者、学校関係者、そして市民の方々に、門真市教育振興基本計画の理念に基づく教育のあり方について、忌憚のない意見を交わし、議論を積み重ねてきました。これも全ては、「子どもの夢と幸せをみんなで育む門真の教育」という、門真市教育振興計画の理念を実現するためであり、門真の教育を魅力あるものとするために、喫緊に行っていただきたいことをこの答申に盛り込みました。この間の、委員の熱い思いと教育委員会に対する期待を、教育委員会は真摯に受け止め、本答申を今後の課題も踏まえながら、柔軟かつ確実に実行されることを要望いたします。」

### 森田会長

はい。最後の「教育委員会に対する期待を教育委員会は」っていうところは、どちらか取ってしまったら。

### 国吉委員

後ろ取ったらどうでしょうか。

## 森田会長

そうですね。後ろ取りましょう。

その他いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。これで完成ということであれば、これをもう一回見るという作業も必要かも知れませんが、今後は、語句の明らかな間違いをこちらで直させていただくこととして、ここでもう一度見ていると、また時間がかかってくると思いますので、今はご指摘いただいた部分を直して、反映させていただいているので、後は簡易の修正とさせていただいて、これをもって完成ということにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

## 事務局（満永教育部長）

そうですね、もう皆さんに一度見ていただいていますので、もう内容は変更せずに、誤字脱字などがもしありましたら、後ほど修正はしますけれども、一定これで答申として教育長にお渡しいただければと思うんですが、委員長いかがでしょうか。

## 森田会長

そのような形で運ばせていただこうと思います。皆さんが良ければ、その形でさせていただければと思います。よろしいでしょうか。

## 全委員

異議なし。

## 森田会長

ありがとうございます。休み時間も取らずに3時間も議論いただいてありがとうございました。

次に、お手元に資料があると思うんです。審議の経過になっておりまして、事務局により、各部会のまとめを作成したものです。これについても何かご意見をお願いしますけれども、今日ここで見ていただくのも大変かなと思いますので、これもお持ち帰りいただいて、見ていただいて、お気づきの点があったら、後ほどお知らせいただくというような形でよろしいでしょうか。

ではそういうかたちでお願いしたいと思います。時間がない中でそのような対応になってしまいますが、よろしく願いいたします。

事務局にはもし修正があった場合は、皆さんに分かるようにメール等で報告していただければと思います。よろしく願いいたします。

では、これもちまして、皆様からご了承いただいたものといたしまして、本答申案を、答申書といたしまして、門真市教育委員会教育長様に手交したいと思います。事務局の方で、ご準備をお願いいたします。

<手交の準備>

## 森田会長

それでは、審議会を再開します。  
事務局、お願いします。

## 事務局（中野教育総務課長）

それでは、答申書の手交に移らせて戴きます。  
久木元教育長、お願いいたします。

## 森田会長

答申書。門真市教育委員会様。門真市魅力ある教育づくり審議会会長 森田英嗣。平成 28 年 11 月 1 日門教総第 635 号にて門真市教育委員会から諮問のありました「門真市教育振興基本計画の理念に基づく教育のあり方」について、ここに答申します。どうぞよろしく申し上げます。

## 久木元教育長

ありがとうございます。

私から一言御礼の言葉を申し上げたいと思います。森田会長を始め、委員の皆様方、2年間という長きにわたり熱心な議論をしていただきまして、本当にありがとうございました。

本日も遅くまで白熱した議論をしていただき、感謝申し上げますとともに御礼申し上げます。

議題のとおり門真の教育は課題が山積しております。その中で多面的な観点から、また多岐にわたるご提言をいただいたものと受け止めております。

昨年も中間答申を受けて、チーム学校による人材活用あるいは部活動の弾力的運用等をご提言いただきまして、今年始まったものもございまして、まだ検討を進めているものもございまして。

今回の提言も真摯に受け止めさせていただきまして、しっかりと教育行政を進めて参りたいと思っております。

特に今回は少子化に伴う再編等も含めたものや、濃淡いろいろございますが、財政面に關わるものもございまして、一気にすることができるか我々も不安いっぱいですが、しっかりと教育担当部局として、財政当局にも働きかけながら、進めて参りたいと考えています。

本当に2年間ありがとうございました。これからもまたいろいろな場面で門真の教育のためにご指導、ご鞭撻賜りたいということを申し上げまして、御礼のあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。

## 事務局（中野教育総務課長）

ありがとうございました。

## 森田会長

みなさん長い間、2年間という長い期間にわたって、本当に真摯なご議論をしていただきまして、今日があったのだと思います。野球は9回で終わりですが、今日は10回目ということですが、本当に切りのいい数字だったと思います。1回1回の議論は非常に長い時間だったと思いますが、みなさん最後まで本当にいい意見を言っていただいたなと思います。感謝を申し上げます。

特に市民代表の委員さん、市民の代表として本当に気持ちのこもった、心のこもった、門真の未来を考えたご意見をいただけたと思っています。この実現に向けて、ぜひ教育委員会や門真市にお願いしたいと思っています。

学校代表のみなさんには、いろいろと難しい立場もあったかもしれませんが、ざっくばらんな雰囲気の中で、現実を踏まえたご意見をいただけたと思います。我々は外にいる人間ですので、つい雲の上のようなことも考えてしまいますが、まさに門真の教育を担っているみなさんのご意見は、大変重かったですし、そこに基づいて現実を考えていかないといけないのだということを毎回感じていたところです。ありがとうございました。

学識経験者の2人の先生は、本当によく部会をまとめていただいて、さすが学識経験者だなと思った次第でして、最後まで導きいただきまして、ありがとうございました。

そして、最後に事務局のみなさん。みなさんのご尽力はすごいものだったと思います。みなさんが門真について、子どもの将来について、考えていくのだという意気込みを強く感じました。その気持ちに動かされて、私たちはここまでこれたのだと思います。時には委員から難題があつて、事務局にここを見てきてほしいというようなこともあったのですが、丁寧に視察していただいたり、こういうデータが欲しいというときは、データを集めていただきました。それが我々にとって大きな糧となって、今日までこぎつけられたのだと思います。感謝申し上げます。

答申の中身のキーワードのひとつがチーム学校だったのですが、これはまさにチーム門真でやっていただいたと思います。

これはいつも川村委員がおっしゃっているように紙だけで終わってはだめですので、これを現実に関心する力にしていくということです。それは大変な課題だと思いますが、引き続き、門真のことは全国が注目していると思いますので、ここで動きを見せるということは、門真だけに影響があるのではなくて、もっ



と広い範囲で影響があると思いますので、ぜひこの答申を基にして、いい教育を今後も作っていただければありがたいですし、我々もやりがいがあったなと思うところです。

本当にみなさんのおかげで今日までこぎ着けることができました。会長としてはのんきなことばかりを言っていたと思いますが、みなさんが支えてくださったおかげで、ここまで来ることができたと思って、感謝しております。みなさん長期間に渡り、ありがとうございました。これにて終了としたいと思います。ありがとうございました。